

マダニ: 県内11種のマダニ

ヤマトマダニ、タサゴキラマダニ、フ外ゲチマダニ等



マダニ: 日本紅斑熱

・1984年徳島で確認。東北以北にはいない。西南日本に多い。広島では、東部に多い。

・ツツガムシに比べて刺し口が小さい。



マダニ: 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)

- ・2011年特定されたウイルス(中国、韓国、アメリカ): 死亡率12%。
- ・もともとあったと思われ、最近解明。

■国内の発生状況(都道府県別)

県名	生存	死亡	計
広島県	8	2	10
和歌山県	2	0	2
兵庫県	1	1	2
島根県	1	0	1
岡山県	3	1	4
山口県	3	5	8
徳島県	6	3	9
愛媛県	12	8	20
高知県	11	3	14
佐賀県	1	2	3
長崎県	5	2	7
熊本県	3	2	5
大分県	3	0	3
宮崎県	13	8	21
鹿児島県	7	3	10
計	79	40	119

広島県の発症例

	発症時期	年齢性別	転帰
1	平成24年夏	成人男性	死亡
2	平成25年5月	60歳代女性	生存
3	平成25年8月	70歳代男性	生存
4	平成25年9月	70歳代男性	生存
5	平成25年10月	60歳代男性	生存
6	平成26年5月	60歳代女性	生存
7	平成26年5月	60歳代女性	生存
8	平成26年10月	60歳代男性	生存
9	平成27年4月	80歳代女性	生存
10	平成27年5月	80歳代女性 ¹⁸	死亡

参考資料 2) マダニ媒介SFTSとは

重症熱性血小板減少症候群 (Sever fever with thrombocytopenia syndrome: SFTS)

これまでに、中国・日本・韓国でSFTSの患者が報告されています。中国ではフタトゲチマダニとオウシマダニからウイルスが見つかっています。



ウイルスの潜伏期間は(マダニに咬まれてから)6日~2週間とされています。

2013年は、西日本の12県でSFTS患者が報告されています。
()内は発症数



SFTS患者報告基本情報

合計	33名
性別	男 12 女 21
年齢	中央値 73歳
	40代 1 50代 4 60代 6 70代 9 80代 10 90代 3

2013年1月1日以降に報告された患者(合計33名)は40代以上でした。

2013年のSFTS患者は5月に多く発症しています。



資料は、国立感染症研究所ホームページ
<http://www.niid.go.jp/niid/ja/sfts/3143-sfts.html>を引用

ダニのまとめ

- ・シカ・イノシシ等野性動物の多い所に多い
- ・行動・服装・予防・着替え・入浴
- ・ダニに噛まれる≠感染症 保有率0.1%~3%(ツツガムシ、マダニはもっと低い)

もし噛まれたら

- ・噛まれて時間が経っていない→ワセリンを虫ごと塗り、30分放置後ガーゼ等でふき取る。
- ・落ちない場合(時間が経つとセメント状物質でくっつく)、皮膚科で皮膚ごと切除
- ※決して無理に取らない。潰さない。